ちいき人権 WORLD

発　行
2020年度　　秋号（No.100）

発行：世界人権宣言八尾市実行委員会
委員長　土田　紀康
連絡先　TEL　072-924-9853
FAX　072-924-0134
編集：「ちいき・人権・World」編集委員会

もくじ

2 P ..... 祝！ちいき人権 World100 号発行
1 号から振り返って…
6 P ..... 八尾市人権教育・啓発プラン
策定審議会について
7 P ..... じんけんにかかわる八尾市施策
8 P .. 私たち、パーソナリティーになっちゃった！
9 P ..... じんけん楽習塾報告
10 P ..... 白根さんと考えよう！世界の人権 34
11 P ..... 新共有する時間は…part44
12 P ..... うーさんのおすすめ本
/じゃりちえ日記 67
13 P ..... 気ままにおしゃべりシネマ 43
14 P ..... 勝手にきゃらふる 66
15 P ..... まちがいさがし⑲
/ ひゅーまんフェスタ 2020 開催について
16 P ..... ひゅーまんフェスタ 2020

祝 ちいき人権 World 100 号発行

ちいき・人権・world 発行 100 号に寄せて

この度、世界人権宣言八尾市実行委員会（世人やお）機関誌『ちいき・人権・world』が発行 100 号を迎えることとなりました。年 4 回の季刊発行ですから、概ね 25 年に及ぶ歩みを積み重ねてきたことになります。

私自身は、2016 年度から実行委員長に就任し 5 年目になりますが、節目となる 100 号を実行委員長として迎えられたことをたいへん喜ばしく感じます。しかし 100 号の歩みは、前任の荒木節郎さん初め歴代委員長（代表幹事）ならびに、前身の世界人権宣言八尾連絡会議（八尾連絡会議）から現在の世人やおに至るこれまでの活動にご参加、ご協力いただき支えてきていただきました多くの皆様のお陰であると、改めて感謝申し上げます。

さて本誌は、1 号から名称を『ちいき・人権・world』と発行されてきましたが、発行者は八尾連絡会議（木下博代表幹事）で、事務局は八尾市企画調整部にあり、部内担当者が中心となり編集発行されていました。その後、市同促（八尾市同和事業促進協議会）事務局の関わりもあり、八尾市内の人権諸団体とのネットワークが広がり、その方々が参加する編集委員会形式によって編集方針が検討され発行されるようになったのが 14 号（1998 年 9 月号）からで、それが発展して現在に至っています。

1 号から読み直してみると、この約 25 年間、八尾市においても様々な人権の動きがあったことが分かります。取り組みにおいてはすでに開催されなくなった研究集会がある一方で、今なお回を積み重ね続けられている集会もあります。また、八尾市には人権にかかわってこんなにも多くの魅力ある団体、個人が存在することが紙面を通して実感することができます。世人やおは、そういった方々とのネットワークを築きあげることで、「世界人権宣言の精神を広め、人権尊重のまちづくりを市民協働で進める」という目的に繋がると思っています。100 号発行を機に、改めて世人やおの目的を実現すべく取り組みを進めて行きたいと思います。そのことが必然的に 150 号、200 号へと続くことなるでしょう！

これからも世人やお、そして『ちいき・人権・world』をよろしくお願いします。

世界人権宣言八尾市実行委員会
実行委員長　土田紀康

記念すべき 1 号

1 1995.7 1995 年 7 月スタート

世界人権宣言八尾市実行委員会（以下、世人やお）の前進
世界人権宣言八尾連絡会議（以後、八尾連絡会議）として第 1 号発行

6 1996.9

新聞の切り抜きが載ってたよ！

8 1997.3

1984 年、八尾連絡会議発足以来、代表幹事をつとめられていた木下博さんから、鈴木武司代表幹事に交代され発行

発行にあたって～

世界人権宣言は、世界のすべての人々の人権及び基本的自由の普遍的な尊重と遵守の促進を達成するための共通の基準として、国際連合総会で採択されたものであります。

八尾連絡会議は、この宣言の精神を普及・宣伝するとともに、その実現に向けて様々な活動を展開するため 1984 年に設立し、より一層地域活動に促進するため「ちいき人権 World」を発行することといたしました。

八尾市連絡会議から、世界人権宣言八尾市実行委員会へ

「同対審答申完全実施要求国民運動八尾市実行委員会」と八尾連絡会が合同総会を開催し、現在の世界人権宣言八尾市実行委員会に再結成されたことを紹介。実行委員長は上杉行孝さん。

世人やおの実行委員長が
上杉行孝さんから荒木節郎さんに交代

21 2000.6

26 2001.9

4ページに続くよ▶

連載開始！ 19号～33号
がらがらポンでおもちゃ箱

30代のおわりに
連載させてもらいました。
日々のこと、むかしのことを
思う大切な時間でした！
李ぽんみ

19 1999.12

連載開始！ 19号～39号
地球市民として生きる
日本国際飢餓対策機構　清家弘久さん

連載開始！ 14号～33号
にんぷぅちゃんのひとりごと
にんぷさんのお話から始まり、子育てのことまで。
20号からは
ひよこママのつぶやき～ちびぷぅちゃんのお話し
27号からは引き継いで
ミニラVSママゴン
と33号まで長く関わってくださいました！！

連載開始！ 15号～25号
同和問題再見聞
八尾市同和事業促進協議会
笹原さん。

「同和」問題を
みぢかに！

15 1998.12

連載開始！ 14号～25号
わが国における精神病患者と精神障碍者の歴史
八尾みのり会協同作業所スタッフ　岡田猛さん

14 1998.9

中辻えり子さんの長寿連載開始！

8号、9号
市内企業の取り組み紹介
差別のない明るい社会
づくりを目指して…
コクヨ株式会社八尾工場、
八光信用金庫を紹介してます。

14号～ 八尾のまち・やおの環境
自転車で八尾の
まちを走りながら
感じたことを書い
てくださいました。

記念すべき
第1回目の原稿

1998年14号から2020年100号まで、22年間も続いています。

11 1997.12

10 1997.9

連載開始！
やおのまち
こんな人み～つけた♪

26号～
共有する時間は…
自転車で向かった先で
感じたこと、ホームヘ
ルパーとして働いてる
体験等。

シリーズこの人に聞く
私と人権
日新計器株式会社、さらには
ジャスコに西武百貨店と懐かし
い会社が紹介されていました。
八尾の歴史を感じます。

第1回は河昭子さんから。
大谷眞砂子さんや松田直美さん、
藤本幸子さん、北脇真理子さん等
たくさんの人権に関わる方が八尾
にいるのを実感！！

57号～
新・共有する時間は…
共有する時間は…と同じ
く日々の感じたこと等。
今回、86回目の連載です。
これからもよろしく
お願いします！！

川口智恵美さん。長い連載です。第１回は車イスで河内音頭を踊ったそうです♪

連載開始！ 30号～
じゃりちえ日記

第１回 ひゅーまんフェスタ

市と教育委員会と世人やおの共催で、初のひゅーまんフェスタを開催 !!
市民と行政の協働イベントとして育てていくのが目標のフェスタ。ありがたいことに、なんと今年で 19 回目を迎えます。

30 2002.秋

31 2002.冬

32 2003.春

連載開始！ 32 号～
ほっとシネマ

第１回は I am Sam
58 号からはリニューアルして
気ままにおしゃべりシネマ
絶賛連載中です

33 2003.夏

連載開始！
えつじろー・しんのすけが行く

連載開始！ 33 号～
勝手にきゃらふる

池谷麻幸さん、仲谷真さんにつづき、たくさんの方が執筆されています。現在も連載中！！

34 2003.冬

世人ネットワークで繋がるメンバーのもとへ突撃取材。打ち合わせもなくその場で感じたことをしんちゃんの写真と記事にしました。考えてるだけじゃなくて、動くこと会うことの大切さを実感した取材でした。
えつじろー

連載開始！ 34 号～ 58 号
MOOM VOICE
八尾みのり会協同作業所
職員 弘瑛美子さん

61

62th

37 2004.秋

何故かその４から始まる

連載開始！ 37 号～ 53 号
YAO っ CO だより

2004 冬、
2005 春
合併号でした～

38 2004.冬 2005.春

連載開始！ 38 号～ 48 号
ALI の場違いワーク体験

いっぱい
紹介してもらってます。
今回のおすすめは
12 ページへ！

連載開始！
うーさんのおすすめ本

お金って大切！！
ごまちゃん

連載開始！ 45 号～ 58 号
ごまちゃんのほんわか経済学

57

60th YAO キャンドル・ナイト
世界人権宣言の灯をともそう！

43 2006.夏

八尾市つどいの広場事業の委託を受け、NPO 法人 KARALIN が「からりん広場」をオープン…に至るまでの紆余曲折など。からりん広場は現在も開催中！

45 2006.冬

53 2008.冬

連載開始！ 46 号～ 50 号
からりん広場へ
WELCOME

八尾市人権協会
南久宝寺に
引っ越しました！！

46 2007.春

祝 50 2008.春

52 2008.秋

八尾市人権協会
現在の事務所へ

祝！第 10 回 ひゅーまんフェスタ

10 周年企画で公募による
ひゅーペンの原案が登場しました。

歌もつくったよ

最初は四角いひゅーペンでした。
11 回目で右のひゅーペンが誕生！ 2014 年まで四角いひゅーペンが活躍します。

連載開始！
チャレンジ♪まちがいさがし

意外と難しい…

63 2011.夏

一回きり！？
謎のロゴを発見！？

ちいき人権 World

これも可愛くてアリですね

65 2011.冬

67 2012.夏

連載開始！ 67 号～
白根さんに聞く
国際的な人権運動の流れは…？
73 号からは
白根さんと考えよう！世界の人権

とっても勉強になります。
まだまだ連載中！！

69 2012.冬

世人やお的堺人権宣言から、抜粋して一条ずつ掲載しています。上記は２条「だれも差別されません」今回は何条かな？ぜひ挑戦してみてください～

73 2013.冬

世界人権宣言 65 周年記念フェスティバル
せじ～ん 65 開催！

キャンドルナイトからせじ～んへ。
発表の場が変わりました。

61th

80 2015.秋

動くひゅーペン初登場

とっても可愛いです！
様々な場所で活躍してもらっています。
LINE スタンプもあるよ

83 2016.夏

ひゅーペン プロフィール

生まれたところ：
　じんけんだいじに星
生まれたとき：
　ひゅーまんフェスタ10回め
性別：とくになし
特技：じんけんの種をまきます
好きなもの：みんなの笑顔

世人やおの実行委員長が
荒木節郎さんから土田紀康さんに交代

99 号はコロナウイルス特集
大変な世の中になっていますが
いつもと変わらず人権を大切に！！

これからも
まだまだ続くよ！

99 2020.夏

八尾市人権教育・啓発プラン策定審議会について

八尾市では、2001（平成 13）年に、「八尾市人権尊重の社会づくり条例」を制定し、これまですべての人の人権が尊重される社会づくりに取り組んできました。

また、2016（平成 28）年には、市民との協働で「第２次八尾市人権教育・啓発プラン」を策定し、人権尊重の社会づくりに向けたさまざまな取り組みを推進しているところです。

この第２次八尾市人権教育・啓発プランが策定から４年が経過し、人権を取り巻く環境の変化や価値観の変化に対する意識など本市の現状を把握し、基礎資料とするため、昨年 10 月に「人権についての市民意識調査」を実施しました。

国連サミットで採択された持続可能な開発目標であるＳＤＧｓにおいて、「誰一人取り残さない」という理念が示される中、八尾市では、この調査結果を踏まえ、すべての人権が尊重され、市民の皆様が幸せを実感できる社会の実現に向けて、今年度、第２次八尾市人権教育・啓発プランの改定に取り組んでおります。

第２次八尾市人権教育・啓発プランの改定については、八尾市人権教育・啓発プラン策定審議会という審議会で、公募市民委員をはじめとした委員の皆さんの参画のもと、ワークショップ形式を中心に、７月から計画案の検討を行っております。

改定版については、2021（令和３）年３月に計画策定を予定しております。

じんけんにかかわる八尾市施策が審議されています
～八尾市人権協会推薦委員が参加する八尾市の審議会等を紹介します

1.八尾市人権尊重の社会づくり審議会

八尾市人権尊重の社会づくり条例に基づく審議会です。今年度初会議が８月 25 日に開催され、第２次八尾市人権教育・啓発プランの進捗状況及び前回会議以降、市内で発生した差別事象の報告がありました。部落差別は、同和地区がどこにあるかの問合せ、外国人、障がい者に関わっては小・中学校で多く発生していました。また、昨年度より設置された部落差別解消推進専門部会のこの間の議論について報告されました。

2.八尾市男女共同参画審議会

八尾市男女共同参画推進条例に基づく審議会です。現在、条例に基づき八尾市はつらつプラン～第３次八尾市男女共同参画基本計画～（10 年計画 '16～'25）によって施策が進められています。今年度はこれまで５年間の施策推進状況を踏まえ、一部改定を検討することになっています。第１回（8/26）審議会が開催され、昨年度実施された男女共同参画について市民意識調査と施策進捗状況が報告され、改定ポイントについての検討が行われました。

3.八尾市地域就労支援基本計画推進委員会

働く意欲を持ちながら、就労に際して困難な課題を抱える人々の自立・就労を支援するために必要な施策を進めるために第２次八尾市地域就労支援基本計画が策定されています。その計画の進捗状況や新たな施策の提案等を検討するための委員会です。第１回（7/29）が開催され、2019 年度施策推進状況と 2020 年度計画の報告への意見に加え、委員長の提案により 2021 年度事業にむけて各委員へ意見が求められました。

4.八尾市社会福祉審議会障害者専門分科会

昨年度までの障がい者施策推進協議会から改編され、今年度から社会福祉審議会の障害者専門分科会に位置付けられました。2020 年度は、第４期八尾市障がい者基本計画（8 年計画 '21 ～ '28）、第６期八尾市障がい福祉計画及び第２期八尾市障がい児童福祉計画（3 年計画 '21 ～ '23）の策定年度にあたります。第１回は新型コロナウイルスにより書面決議となりましたが、専門分科会の意思疎通支援部会が開かれ（8/25）、意見が交わされました。

5.八尾市子ども・子育て会議

八尾市には子ども施策の総合的で計画的な推進を図るために設置された「子ども・子育て会議」という会議があります。公募による市民委員、子どものことに関係する団体･機関の推薦者 (民生委員、つどいの広場、八尾市校長会など)、学識経験者などさまざまな委員が参画しています。

私は CAP(子どもへの暴力防止プログラム) やつどいの広場、NPO 法人など八尾市で子育て支援に携わってきて、2019 (令和元) 年度から八尾市人権協会よりこの会議に参加させてもらっています。

昨年度は「八尾市こどもいきいき未来計画 (後期計画)」の策定に関わることができました。今年度は昨年度の「八尾市こどもいきいき未来計画 (前期計画)」の実績などの推進状況について質問や意見を述べたりしています。

事前に配布される 50 数ページにわたる資料を細部まで目を通すのは大変な作業ですが、丁寧に目を通しそして気になったところは各担当課に質問し、回答をもらうことを大切にしたいと思っています。まだまだ子どもをとりまく課題は多くあります。限られた会議の中で子どもの人権の視点に立って考えることで自分ができることをしていきたいと思っています。

八尾市子ども・子育て会議委員　中谷弘子

私たち、パーソナリティーになっちゃった！

子どもたちからのお手紙を受け付けています

ＦＭちゃおが、2020年６月にスタートした、リーディングキャンペーン「こどもを守る　命を守る　未来を守る」で、７月に新番組「こどもみらいポスト」を、月一回担当することになりました。ＮＰＯ法人ＫＡＲＡＬＩＮ担当「八尾で元気に！ YAO・ふる・パワー」では、私とパネルシアターユニットのＫＥＩちゃんと、それぞれのこどもを中心とした活動に関わることや、時事ネタを絡めたお話をしています。ＣＡＰプロジェクトやお担当の「ＣＡＰ（キャップ）の安心･自信･自由な時間」では、メインに加え、毎回メンバーが順番に参加して、プログラムに沿って、子どもが暴力によって権利を奪われないようにどうしたらいいかを考えています。

今まで、他の番組にゲストとして出演したり、企画の宣伝のために喋らせてもらったことは何度かあったのですが、番組を持つと言うことで、毎回台本を作って打ち合わせを重ねています。毎回、台本を見ながら話していますが、横道に逸れていったり、思いつくままに話してしまって、最後の曲がかけられなくなったりしています。不安な気持ちで始めましたが、おしゃべりが止まりません（笑）

以前だったらお断りしてた話だったかもしれませんが、このコロナ禍の中で、子どもたちにプログラムを届けることや、イベントや講座を通して学ぶ場を作ることが困難になり、オンラインでの繋がりを作ろうとしたり、ＳＮＳの発信をしたり、できることを試行錯誤していたところに進んだ企画で、縁が運んでくれたお話に抗うことなく進めたら、こんな風になりました。きっと、今までとは違う層に少しでも、子どもの置かれている厳しい現状や、それでもなお頑張っている子どもの可能性を伝え、「子どもの権利」を伝え、地域社会に広げていけるのではないかと期待しています。

今まで、長く活動を共にしてきた仲間たちと、話すことをこんなに丁寧に一緒に考えたり、他のメンバーの思いを放送を通して聞いたりするのがすごく新鮮で、この機会を作れたことは、自分たちの活動にもきっといい影響があるのではないかと思っています。一人でも多くの方に聞いていただきたいなと思います。

松田直美

CAPは『子どもの心と体を暴力から守るには』というプログラムです。そのために大人に出来ること、子ども達自身に出来ることがあります。皆に権利があること、力があることを伝えていける番組になればと思って取り組んでいます！と言うと立派に聞こえるけど、迷ったり失敗した話もいっぱいしてます。気楽に聞いてもらえればいいなと思います。

CAPプロジェクトやおの皆さん

番組案内

FMちゃお　７９．２Hz「子どもみらいポスト」
放送は木曜日 20:00～（再放送土曜日 14:30～）
FMちゃおホームページの動画配信チャンネルで、音声動画としても流していただいていますので、これまでのお話（曲なし）を聴くことができます。

じんけん楽習塾

じんけんを「他人(ひと)ごと」から「自分ごと」へ

2020年度 じんけん楽習塾の報告

2020年度のじんけん楽習塾が終わりました。今年度は、コロナウィルス感染の影響で、定員を20名に限定し、それ以外はオンライン受講にさせていただきました。ただ、参加型学習で、オンラインというのは初めての試みで、技術面でも不安なため、オンライン受講者には参加費をとらないで進めました。オンラインと会場参加者、講師との意見交流等むずかしく、また、音が聞きづらいなどの物理的な課題も残りましたが、全6回開催することができました。内容は下表のとおりです。

	日時	テーマ	ファシリテーター（講師）
1	6 / 3	同じをこえて～多様性と差別～	李（い）ぽんみ （じんけん楽習塾）
2	6/17	部落差別と若者たち	神村早織 (大阪教育大学)
3	7 / 1	難病者の人生からくみとる人間の尊重	梓川一 (東大阪大学)
4	7/15	不安が排除にかわるとき ～非常時から考える日常の差別～	栗本敦子 （Facilitator's LABO〈えふらぼ〉）
5	7/29	新自由主義は学校をどのように変えていくのか ～現代の教育改革について考える～	濱元伸彦 （関西学院大学）
6	8 / 5	SDGsをとりかえせ	森実 （じんけん楽習塾・大阪教育大学）

参加者の感想の一部を紹介して。内容の報告に替えたいと思います。

■1回目　自分は日本に生まれ日本で育ったので、知らず知らずに「あたりまえ」と思ってしまっていることがあるのかもしれないと気づかされた。

■2回目　熱心に部落問題に向き合っている若い学生の意見が聞けて良かった。自分のためになることだから、学びの場が必要という意見が印象に残った。

■3回目　胸がいっぱいになりました。ご自身のことから人生を語られていたので、こんなに心に響いたのですね。「寄りそう」ということも教えられました。

■4回目　コロナウイルスの中で漠然と不安に思ってることがなぜ不安に思うのかということが少しわかったような気がしました。

■5回目　急速な変化をし続けている教育現場で、子どもたちにとって、何を大切にしなければならないのかを常に考え続けることが本当に大事だなと感じました。

■6回目　新自由主義のお話をわかりやすく説明して頂き、ＳＤＧｓの目標により関わっていきたい気持ちになりました。

♫明日のため　今からできる　きみ次第♫

インドの子どもたちとコロナウイルス

これまで何度かマイノリティ女性・子ども支援「ISSYO」の活動について紹介させていただきました。この ISSYO が活動するインド南部、タミール・ナドゥ州でもコロナウイルスのパンデミックが人々の生活に大きな影響を及ぼしています。感染による被害はもちろんですが、今年３月に急遽導入された大規模かつ厳格なロックダウンにより、ISSYO が支援をする子どもたち、女性たちの家庭を含め、日雇いや非正規労働、出稼ぎで家計を立てていた多くの貧困層、被差別層の人々が急に職と収入を失うこととなり、経済的にも精神的にも生活がかなり困難なものとなりました。学校も学年の終了前（インドの学年は毎年６月に始まり、４月に終了します）に当面無期閉鎖となり、卒業や進学を控えた子どもたちも文字通り、先の見えない状況となりました。さらに人口の多いタミール・ナドゥ州では州都チェンナイをはじめ、いくつかの都市、地域で特に感染数が多く、エピセンターとなっていたため、ロックダウンの延長が続き、その度に人々の不安と困難が膨らんでいきました。

ロックダウンの開始により ISSYO でも、家庭に問題を抱える子どもたちが暮らす RIDER ホステルを一時閉鎖せざるを得ず、自宅での生活がどうしても困難な一人を除き、みんなそれぞれの家へ戻って行きました。2020 年度の里親奨学金支援も学校再開と新学年開始の目処がつくまでは支給できない状況となり、まずは可能な限り頻繁に子どもたち、女性たちと連絡を取りあい、安否の確認や各家庭状況のモニタリングに焦点を置く体制を取りました。４月となり、ロックダウン開始から一月前後になると農村部のほぼ全ての家庭から食料が尽きかけているとの連絡が寄せられました。ロックダウン対策のおかげでウイルスに感染したというケースはありませんでしたが、逆にその対策のせいで生活に困窮している家庭ばかりでした。また、女性たちの間では生理用品が不足しているということも判明しました。これらを受け、とにかく子どもたちの家庭がこの場を凌げるよう、支援物資供給を決め、政府による規制と感染防止対策に細心の注意を払いながら、基本的な食料品や石鹸等の衛生用品、生理用品などを中心に４月、６月、８月とこれまで延 60 超の家庭へ配給してきました。

幸い、ISSYO が直接繋がる子どもたち、女性たちの間に感染者は出ていません。また比較的状況の落ち着いた合間を縫って、７月には学力審査のための全国共通試験が行われました。様々な困難に見舞われる中でしたが、奨学金を受ける子どもたちも、ホステル支援を受ける子どもたちも、みんな試験を乗り切り、無事進学・卒業をすることができました。オンラインでの授業を行う学校もありますが、ISSYO が支援する子どもたちの家庭にはインターネットやパソコンはもちろん、スマートフォンすらないところばかりですので、本当にみんなよくがんばったと思います。

現在は９月に予定される学校再開にむけて、子どもたちと一緒に準備をしています。ホステルも状況が許し次第すぐに再開できるように待機しています。支援物資配給も状況如何ではまた必要となってくる可能性が大いにありますので丁寧にモニタリングを継続しています。電話や手紙を通して届く子どもたちの声からは勉強を続けられる喜びや一緒にいられる幸せをしみじみと感じさせられます。「一人じゃないから」という実感は私たちみんなに大きな強さを与えてくれているように思います。

コロナウイルス感染は 2020 年８月 20 日現在で報告されている限り、タミール・ナドゥ州では過去１日の新規感染数が 5,986、死者 116、これまでの合計感染件数は 361,435 となっています。このうちチェンナイでは過去１日での新規感染件数が 1,175、これまでの合計が 121,450 という状況です。

コロナウイルスは無くならないかもしれません。いつかまた新たなウイルスやパンデミックがやって来るかもしれません。ウイルスよりもたちの悪い差別や格差は露骨にかつ容赦無く脆弱な人々を襲います。だからと言って立ち止まってしまってはどこにも行けませんので、どんなに小さくとも、一つ一つできることを探しながら、子どもたちが精一杯の一歩を踏み出していけるよう、ISSYO は子どもたちと一緒に成長しています。

（マイノリティ女性・子ども支援 ISSYO の活動や支援その他についての詳細はウェブサイトもご参照ください。http://issyo-ngo.org/）

新共有する時間は…PART,44

過ぎゆく時間が歴史に

環境カウンセラー/ケアマネージャー
中辻えり子

ちいき人権 WORLD の発刊 100 号おめでとうございます。私は拙い文章を 14 号（1998 年 9 月号）から掲載させて頂いていました。22 年前からだったのに驚きです。「八尾のまち・やおの環境」～「共有する時間は…」～「新共有する時間は…」と、環境や介護のこと、地域での活動のことが中心の文章です。自転車で走りながら、見たこと、感じたこと、心に浮かんできたことを書き繋いで来ました。八尾の自然や人との関わりは「大事にしたい事」であり、「大切な時間」でもあります。

八尾の水田

今は 2020 年の晩夏。自転車通勤の途中で気になっていた風景を写真に撮りました。「八尾の水田」です。田植えがすんだばかりの 7 月に長雨が続きました。ある水田では、3 分の 1 の苗が流されたり、立ち上がらなかったりになっていました。農家の方がその後に少し植え足しもされましたが、手前半分は水面が見えたまばらな状態になっていました。猛暑が続いても世の水田は一面の緑で、8 月の終わりになると稲穂をつけてきました。気になる水田でも、青空を映しながら、しっかりとした株からは稲穂が見えています。

最初の 14 号は「緑のモザイクの夏」の表現で、八尾の水田地帯のことを書いていたことを思い出しました。自転車で通り過ぎながら、稲が風で揺れる音（緑の衣ずれの音と言いたいくらい）とにおい、水田を渡って来る風の涼しさ…空から眺めたら、緑のモザイクになっていると感じる八尾の田園地帯がいつまでもあってほしいとの思いでした。今も毎日、毎年通勤の自転車で走って眺める風景が駐車場になり、住宅街となり、商業地帯になりと、少しずつ少なくなってきていますが、長年耕作している人の力も感じられて、水田の緑が運ぶにおいと風と音が健在であるのはうれしいことです。

世界的な規模で新型コロナウイルス感染が続き、経済活動を維持しながら、感染対策・予防をしていく「新しい日常」の生活が求められている今年。日本でも緊急事態宣言解除後の感染は、いつどこで起きても不思議でないほど身近な所でも起こるようになり、高齢者や疾患のある人への感染対策はさらに必要になって来ます。日々、感染者の動向や、対応・対策に加えて、猛暑のなか、熱中症や脱水症状への注意が毎日のトップニュースになっています。そして、医療従事者等への尊敬の念や感謝だけでなく、感染（者）に対する誹謗中傷や偏見差別のニュースも流れています。

近年にないほど、2020 年の今年は一人一人の生活、生き方が問われ、人との関わりや繋がりの大切さを知らされる年になりました。過去にも学びながら、今の生活を乗り越えて、未来につなげていきたいと思います。地域でのふれあいの場も持てなくなって半年。人と出会うことの喜びの大きさを、今、かみしめています。高齢者の方達とは感染者の媒介者とならないように注意して接しながら、共有する時間を大切に毎日の勤務を続けています。

～さんのおすすめ本

唐突ですが、クイズです。

恋愛結婚と見合い結婚、どちらが歴史的に古いでしょう？

ずーっと昔は、見合いなんてなさそうな気がするから恋愛結婚！と思ったあなた、正解です。ただ、「家」の存続が最も大事だった村の長や武家の中では、結婚相手を選ぶ自由はありませんでした。そして明治時代には庶民に見合い結婚ブームがきたんですって。

では、次の問題

囚人が４人います。監視する人が２人いますが、目が届きません。ちゃんと監視するには何人必要でしょう？

４人？それでは、人件費がかかって仕方ありません。２人で目が届かないといいましたが、ヒントは「2 人も要らない」です。？？？

『新体感する社会学』には、上のような問題とともに、その背景にある社会について改めて自分で考えることができる講義が 15 回。世の中ってこんなもの、と思っていたら、実は違うかもしれない、と思いかえす余地があることをまさに体感できて面白いです。もっと知りたくなったら、参考になる本も掲載されています。

最後に、先ほどの問いの答えを書いておきましょう。究極的には監視する人はゼロにできる！でした。なぜかを知りたい方は、本を読んでね。

新体感する社会学
Oh! My Sociology
新曜社　金菱　清　著

じゃりちえ日記

VOL66

困難に直面して（優柔不断な面もある）

今年やっと、私の足となる「車イスの作り替え」に踏み切れた経緯について書いてみよう。

「電動車イス」か「簡易型電動車イス」どちらを作ろうか悩んでいた。

結論は「簡易型」リクライニングとティルト機能がついている車イス。色んな方の意見を聞きながら、最終決断は自らで決めることが出来た。

原因の一つを挙げると、左手の左肩を昨年ぐらいに痛めてしまったから。

身体の部位を痛めている、首・肩・足の痛み、手のしびれなどなど。書き出してみたが、約４～５年の間に色んな部位の痛みがあるのかと我ながら、感心する。

車イスの作り替えは特別な事情がない限り、１台しか車椅子は作り替えることはできない。現在２台車イスがある、けれど（修理は出来ないが乗っても良い・基本、ポイ捨ての簡易電動車イス）と（修理のできる電動車イス）を併用して使っていた。

破棄になっている簡易電動車イスを乗り続けていたので、バッテリーが壊れた。自費購入だとバッテリーだけで何十万円もする。

身体のことを考えることにして、「楽」な方を選んだ。もう身体に痛みがくるとさすがに限界だ。コロナの影響で「巡回相談がなくなった」ため、文書判定へ。物心ついた時には、O学園に通っていたので、頼み込んで先生に「書類」を書いてもらえた。

いつ頃、大阪府の判定がおりるのかは未定。２ヶ月又は３ヶ月。長い目で見れば今年中に「新たに車イス」を作ることが出来れば良いかな？と思っている。

私にとって『左手』が使えなくなることは、生活に支障をきたしてしまうことになる。

電動車イスを乗るのを諦めた（短距離は現在も使用中）。それは途中で、操作出来なくなっても電動車イス本体が約７０～８０ｋｇの重さ＋乗る人の重さ。押してもらうことは気の毒に思った。

色んな決断があるけれど、迷いながらも『最終決断』をしていることが多いと思う今日この頃。

気ままにおしゃべりシネマ vol.43

アンという名の少女
（2017 年　カナダ）

K：これは、映画じゃないね。

E：そう、今回はカナダのテレビ局と Netflix が共同制作した『Anne with an “E”』について話したい。孤児院で育ったアンがマシューとマリラ兄妹の養子になって成長していく物語。プリンスエドワード島の豊かな自然と人々の暮らしが描かれている。原作はＬ・Ｍ・モンゴメリの『Anne of Green Gables』、村岡花子さんは『赤毛のアン』と訳した有名な児童文学小説です。

K：なんだか最初から飛ばしてくるね。

E：中学時代に出会ったアンに久しぶりに再会した気分。本は読んでた？

K：アニメの再放送を見ただけかなぁ。なんとなくストーリーは知ってるよ。

E：いつも前向きで明るいアンは頼もしかったし、友情や恋の話にドキドキワクワクした。懐かしくてなんとなく観た第一話「運命は自分で決める」にはびっくり！

K：ほんとにびっくりだよね。よく喋るし、話はおおげさであんまり好きな感じじゃなかったな。寡黙なマシューとチグハグな感じがして、残念な主人公と思ってしまった。

E：確かによく喋る。言葉がカラダから溢れ出る感じ。そこがいいんだけど静かで穏やかな日常が、、、マリラの気持ちも今はわかる。驚いたのは、19 世紀末のカナダの当たり前を現代に通じる人権課題につながるストーリーになっていること。孤児や民族、マイノリティーへの偏見や差別、いじめやジェンダーについてのエピソードもしっかり盛り込まれてる。すごくいい！

K：そこのところは同感。女の子は意見を求められなくて素直に従うだけ。不登校になっても学問は要らないと言われる。「農場の働き手として役に立たない」と言ったマリラも、「自分は何もできないと思ってるの？」と問われて絶句。アンは怒りやモヤモヤを言葉にしてくれる。だからかな、だんだん好きになってきたー。

E：孤児院や引き取られた先での辛い経験がフラッシュバックしてフリーズしてしまったり、惨めな自分と必死で向き合うアンがいる。とにかくこんなに深く考えさせられる物語だったのかと驚かされて、ぜひいっしょに観て欲しくなった。

K：シリーズが進むにつれて黒人差別や先住民族の同化政策も出てくる。今年注目された BLM（Black Lives Matter）の運動や日本のアイヌ民族政策にも繋がる話だと思う。考えずにいたことにハッとさせられる言葉や場面がいっぱいあって、まさに自分ごととして向き合わさせられる作品だと思う。少女向けでも子ども向けでもない、みんなに観てほしい。

E：最初は孤児というだけで危険で厄介者扱いされていたアン。どんなふうに周りが変わっていくか、どんな出会いがあるか毎回楽しみ。アンの影響力だけじゃなくて、周りのみんなにドラマがあるから見逃せない。またきっと喋りたくなるよ。

〈つぶやき〉
　おそらく今より女の子たちに自由な選択肢がなかった時代、ああいう主人公の物語は見ていて気持ちがいいですね。あと大自然の舞台も清々しさに拍車をかけるし、映像とか小物とか衣装とか隅々まで素敵な世界観のドラマだと思います。（K）

勝手にきゃぷてる

66

＜精神障がい当事者の苦しみ～精神科病院への入院②＞

海田　若菜

前回に引き続き、私が精神科の閉鎖病棟に入院した時の事を書きたいと思います。

入院して３日間くらいはずっと泣き通しでした。しかし、それを気にかけてくれる看護師さんは誰もいませんでした。最初の頃、私は外出制限がかかっていて、病院どころか病棟から出る事も出来ず、１階の売店に行くことも許されませんでした。開かない窓からすぐ側にあるコンビニを見て、そこを歩く人達を見て、まるで刑務所に入ったような気分でした。

当時、私は 30 歳でしたが、病棟の中で一番か二番くらいに若い女性でした。病棟はナースステーションを中心に男性病棟、女性病棟に別れ、ナースステーションの前に広いデイルームがあり、そこでみんなで食事を食べました。デイルームには、テレビが一台あり、新聞や雑誌もありました。デイルームにいると、自分の父親くらいの歳の男性患者さんに「自分の女にならないか」と言われました。もちろん断りましたが、そのような事が度々ありました。

外出制限が解除され、朝の９時から夕方の５時まで、病院とその周辺のみ外出が許可されました。しかし、そうなるとまた問題が起こりました。他の病棟の男性患者さんにストーキングされるようになったのです。その患者さんは妄想の症状があり、私の事を恋人だと思っていたのかもしれません。突然プレゼントを渡されたり、呼びとめられ「君の本当の名前がわかった」と言われたり、妄想と現実がごっちゃになった日記のようなものを渡されたりしました。私は困り、担当の看護師さんに相談しました。するとその看護師さんは「別の病棟の患者さんに対して対応する事は出来ない。その人に会うのが嫌ならば、海田さんが外出しなければいいだけの話しだ」と言われ、相談した事を後悔しました。それ以降、私はその男性を避けて外出し、それでも会ってしまったら「あなたの病気の症状である妄想が悪化しているから、主治医にちゃんと言って欲しい」と伝えました。

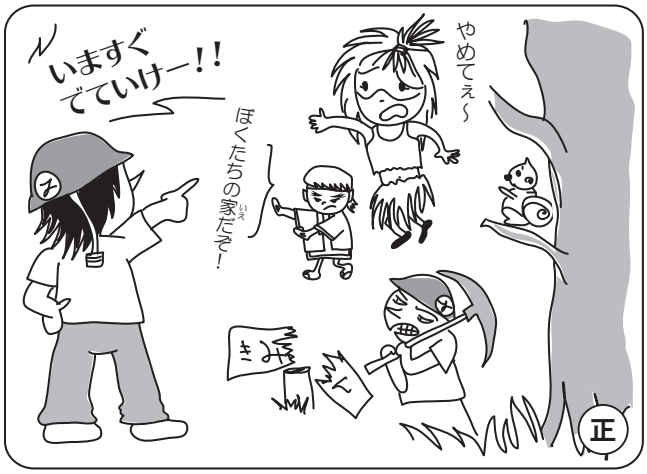
つづく

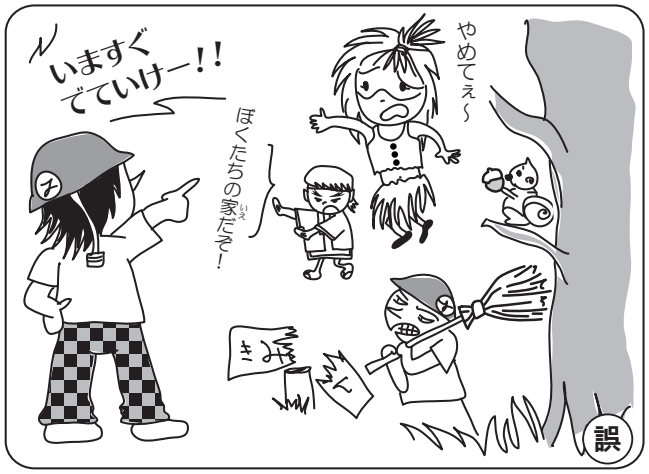
チャレンジ♪
まちがいさがし
⑲

世人やお的世界人権宣言第８条
「うばわれた権利は とりもどせる」

チャレンジしてね♪

左の絵が正解。右の絵は、まちがいが５つあります。
探して下記まで送ってくださいネ。

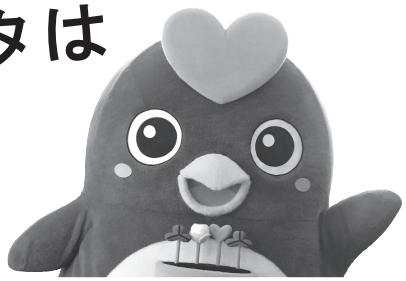




正解者には、世界人権宣言
八尾市実行委員会
オリジナル缶バッチ
プレゼント！

わたしたちは、自分の権利が奪われた時には、「いやだ！」って怒っていいのです。
そして、国の裁判所にすばやく助けを求めることができます。

２０２０ひゅーまんフェスタは少し控えめ開催です！



今年のひゅーまんフェスタは、新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、一部開催できない企画があり、例年に比べ少し控えめな開催になります。13 日（金）の１日目は、第 43 回みんなの幸せを築く市民集会と本人通史制度の啓発のみになります。オープニングセレモニーをはじめ２日目 14 日（土）も民族文化フェスティバル～ウリカラゲモイム～や１Ｆ光のプラザでのステージ発表など中止せざるを得ない企画もありますが、例年通り人権について学べる展示や参加コーナーなど盛りだくさんです。

八尾市内の障がい者作業所提供による素敵な景品が当たるクイズラリーも 14 日は実施します！できる限りの感染予防対策を行い、皆さんが安全に参加できるようにしていますので、ぜひご参加下さい。
詳しくは次ページをご覧下さい。

ニコニコえがお キラキラじんけん ワクワクチャレンジ

ひゅーまんフェスタ 2020

19th

11月14日(土)

八尾市文化会館 プリズムホール

開催時間 10時～16時

5F レセプションホール

子どものためのプレパーク
●10:00 ～ 12:00

劇団どろっぷ演劇：里の風 HOTEL
●13:30 ～ 14:30

各コーナー参加体験無料
景品付きクイズラリー

4F 研修室

つどいの広場・地域子育て支援センター
乳幼児とともにつどって、交流♪遊び♪気軽に相談♪

回廊ギャラリー こどもいきいき写真展（15 時まで）

会議室 1 ひとりで悩まず相談しよう。
いじめからこどもを守ります。
じんけん作品展示会
あなたにとって平和ってなに？
～オリジナル絵本「てるちゃんとみさちゃん」

会議室 2 点字体験をしてボッチャで遊ぼう！！
～盲導犬ウェンディも来るよ！～（15 時まで）

3F 展示室

ディスコンで遊ぼう！（15 時まで）/ 識字・日本語教室　作品展示会
障がい者作業所の授産製品の販売・展示（15 時まで）
かけはしになりたい展 2020 ～みんなの笑顔が大好き～
「こんにちは高齢者あんしんセンターです」～高齢者の人権問題について知ろう～
パネル展示（八尾市企業人権協議会の取り組み）/ ヘルプマーク等の展示
平和について考えよう～八尾市の取り組みを通じて～
放置自転車問題と障がい者理解のための啓発 / 安全・安心なまちづくりとは！

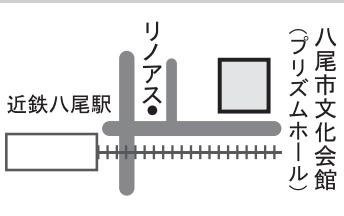
1F 光の広場

みんなの心をつなごう！
「さをり織り」体験
YIC 多文化 BINGO!
プラバン作り

11 月 13 日（金）　14 時 ～ 16 時　小ホール

本人通知制度の啓発について
第 43 回 みんなのしあわせを築く八尾市民集会（申込制）

ひゅーまんフェスタの
マスコットキャラクター
ひゅーペン



手話通訳あり
要約筆記あり

■共催(連絡先)
八尾市(人権政策課072-924-3830)
八尾市教育委員会(人権教育課072-924-9854)
世界人権宣言八尾市実行委員会(072-924-9853)
■協賛　八尾市企業人権協議会